

《京都》御所と離宮の栞



其の十七

— 京都御所 —

てんじょうのま ごいし
清涼殿 殿上間の御椅子



この度開催します「京都御所 宮廷文化の紹介」＜平成29年秋＞（平成29年11月1日＜水＞～5日＜日＞）にて、この御椅子を展示します。

展示場所：管理事務棟

だいばんどころ ごいし
清涼殿の台盤所の御椅子

たかみくら
（栞其の七）、高御座の御椅子

（其の十四）に続き、ここでは

てんじょうのま
清涼殿にある殿上間の御椅子

（殿上の御椅子）を紹介しま

す。殿上間は清涼殿南廂にあ

り、天皇に近侍する蔵人や殿

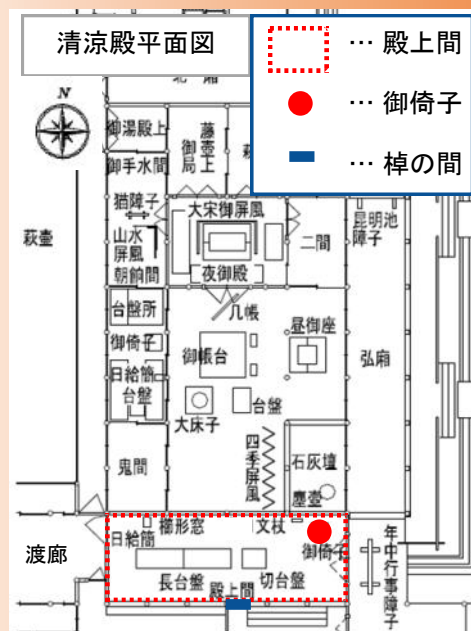
てんじょうのま
清涼殿 殿上間



上人の執務の場として用いられた場所です。殿上間では、東北隅に置かれた御椅子を空間の頂点（上座）として、その西側の畳に臣下が官位の高い順に着座することから、御椅子は常日頃から天皇との関係を意識させるような機能を持っていました。また、御椅子は儀式用の座具として実用性も備えており、清涼殿東正面で行われる元旦の拝礼の儀式（小朝拝）などでは、殿上間から持ち出して天皇が着座されました。



ぶんじょう
殿上の御椅子（左側にあるのは文杖）



殿上の御椅子は座の幅77cm、奥行83.5cm、高さ112.3cmと、京都御所にある御椅子のなかで最も大きく、背面に鳥居型の背もたれ、側面に勾欄こうらんがつき、紺青色の連子れんじや菊唐草模様などの潤色じゆんしよくの金具の装飾が施されています。そして、座面には纒うんげんべり縹縁の小畳と茵しとねが重ねられますが、この御椅子の最も大きな特徴は黒漆地に紫檀の木目塗り仕上げであり、朱漆により丹念に木目が画かれている点です。先に紹介した台盤所の御椅子は黒柿地の濃淡、高御座の御椅子は赤漆地に黒漆で木目が画かれており、御椅子として同様の形式でありながら、それぞれに異なる特徴が見所となっています。

また、平安時代の蔵人の実務書『侍中群要』や鎌倉時代の順徳天皇著になる『禁秘抄』には、殿上の御椅子の舗設について記載があり、夜間には御椅子に覆いをかけて、朝になるとそれを取り、棹の間と呼ばれる横木に覆いをかけるという独特の作法がありました(写真:下段左)。



殿上の御椅子



朱漆で木目の模様が画かれている



棹の間(赤丸部分)に覆いを掛ける



菊や唐草の紋様が施された金物

けまり

蹴鞠が行われた庭



蹴鞠の庭(左側の建物は小御所)



蹴鞠の催し

「京都御所 宮廷文化の紹介」<平成29年秋>で下記の通り蹴鞠の催しを行います。

日時: 11月5日(日) 10時・11時

場所: 春興殿前広場(雨天時: 新御車寄)

蹴鞠は、革製の鞠を地面に落とさずに蹴り続ける、古代以来行われてきた伝統的な球戯です。

(蹴鞠について: 参考 [宮内庁HP](#))

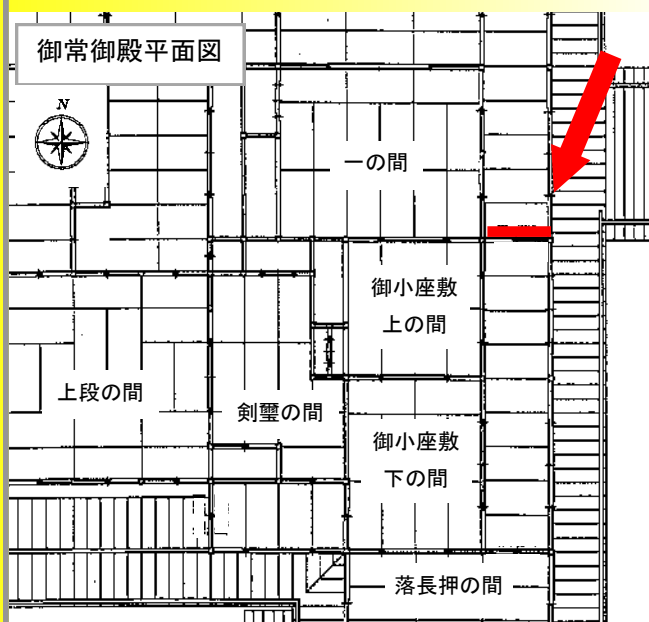
蹴鞠を行う場所を、鞠庭、鞠懸かり、鞠壺、鞠場などと呼び、広さは約14メートル四方で、その四隅には松・桜・柳・楓といった式木(四季木)が植えられます(臨時に青竹を切ったものを立てて代用することもありました)。また、鞠庭の周りに「鞠垣」という垣を造ったこともあったようです。

蹴鞠は球戯ではありますが、位により決められ

た場所から鞠庭に入る、枝に取り付けた鞠を解く、使用する鞠の調子を確認するなど、蹴鞠を始めるまでに細かい作法があります。

小御所とその北側にある御学問所の間には小庭があり、これを「蹴鞠の庭」と呼んでいます。この場所で行われた蹴鞠の催しを御学問所から天皇が御覧になったという記録があります。

なお、御常御殿には、式木の中で蹴鞠をしている様子が画かれる杉戸絵(写真: 下段。 [栞其の四](#)でも紹介)があります。



杉戸絵「蹴鞠」の位置



京都御所御常御殿東御縁座敷「蹴鞠」画: 岡本亮彦

すけひこ



御学問所上段の間 障壁画「十八学士登瀛州図」

じゅうはちがくしとうえいしゅうず



「京都御所 宮廷文化の紹介」
＜平成29年秋＞（平成29年
11月1日（水）～5日（日））で
は、明かり障子を開放しますの
で、室内の障壁画がご覧いた
だけます（気象状況などにより
閉鎖する場合があります）。



御学問所



御学問所は、読書始めなどの学芸関係の場であるとともに、臣下との対面にも使われ、明治新政府の樹立を宣言した
「王政復古の大号令」もここで発せられました。全6部屋から構成されており、その北東に位置する上段の間には、
じゅうはちがくしとうえいしゅうず かとうえいがく
「十八学士登瀛州図」と題し、部屋の四方の襖や壁合わせて18面に狩野永岳が色鮮やかな障壁画を画いています。



御学問所上段の間「十八学士登瀛州図」画：狩野永岳





琴の音を聞く人物と景色を眺める人物



琴を弾く人物



書を読む人物



食事やお茶をする人物

えいしゅう

瀛州とは中国で神仙が棲むと伝えられる山のこと。唐の

たいそう

二代皇帝太宗がまだ位につく前、文学館を開き18名の文士を集めて文籍を論じあい、十八学士と称して重く礼したので、天下の人々はそれに選ばれたことを名誉として「瀛州に登る」と言ってたたえたということです。

障壁画には、食事やお茶、碁、書、琴や絵を楽しむ学士、それらを聞いたり見たりする学士、景色を眺めたり、立ち話をする学士、十八学士のお世話をする者など、文学館内の様子が四方にかけて画かれています。

とじょかい ぼうげんれい うしねい

文学館に入った十八学士は、杜如晦、房玄齡、于志寧、

そせいちょう せつしゅう ちよりょう ようしれん りくとくめい くえいたつ りげんどう
蘇世長、薛収、褚亮、姚思廉、陸徳明、孔穎達、李玄道、



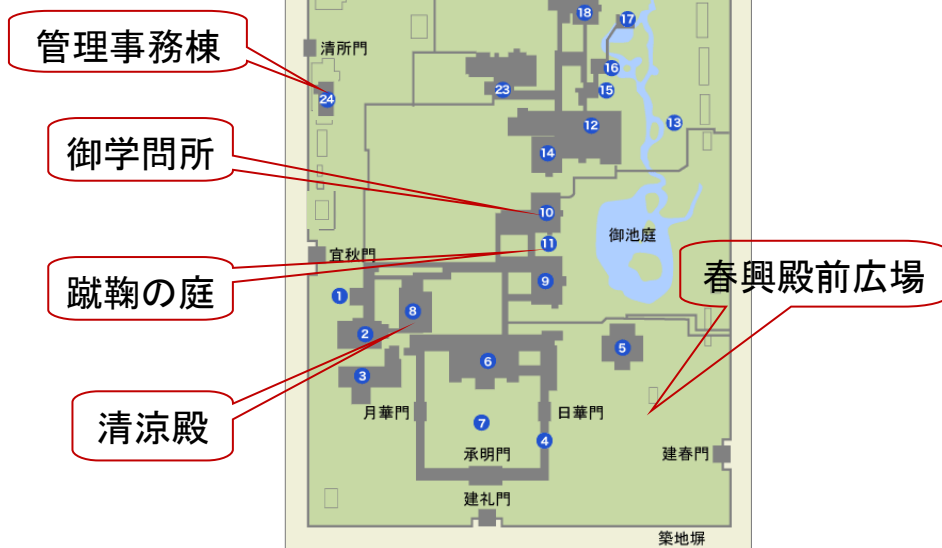
絵を揮毫している人物とそれを見る人物

りしゅそ ぐせいなん さいいんきょう がんそうじ きょけいそう せつげんけい ふたぶんたつ そきよく

李守素、虞世南、蔡允恭、顔相時、許敬宗、薛元敬、蓋文達、蘇勛の18名で、そのうち、杜如晦、房玄齡と虞世南の3名

は、紫宸殿にある古代中国の賢聖を画いた賢聖障子(栞其の十四で紹介)の中にも画かれています。

京都御所案内図



- ① 御車寄
- ② 諸大夫の間
- ③ 新御車寄
- ④ 回廊
- ⑤ 春興殿
- ⑥ 紫宸殿
- ⑦ 南庭
- ⑧ 清涼殿
- ⑨ 小御所
- ⑩ 御学問所
- ⑪ 蹴鞠の庭
- ⑫ 御常御殿
- ⑬ 御内庭
- ⑭ 御三間
- ⑮ 迎春
- ⑯ 御涼所
- ⑰ 聴雪
- ⑱ 御花御殿
- ⑲ 皇后宮常御殿
- ⑳ 若宮御殿
- ㉑ 姫宮御殿
- ㉒ 飛香舎
- ㉓ 参内殿
- ㉔ 参観者休所

「京都御所 宮廷文化の紹介」＜平成29年秋＞

期間：平成29年11月1日（水）～5日（日）

入門時間：9時～15時20分（退出は16時まで） 入口：宜秋門 出口：清所門

催し：雅楽 11月3日（金・祝）・4日（土）10時・11時 会場：春興殿前広場（雨天時：承明門）

蹴鞠 11月5日（日）10時・11時 会場：春興殿前広場（雨天時：新御車寄）

展示：回廊（東側） 生け花（月輪未生流，御室流，嵯峨御流）

清涼殿 儀式の紹介 人形展示「叙位・除目」

大臣宿所 装束（十二単）の展示

管理事務棟 御椅子の展示

参観休止日：平成29年10月30日，31日及び11月6日，7日は準備及び後片付けのため通年公開は休止となります。

◇マークは、「京都御所 宮廷文化の紹介」でご覧になれます。詳細は、<http://www.kunaicho.go.jp/event/kyotogosho/kyotogosho.html>をご覧ください。

通マークは、申込不要の京都御所通年公開でご覧になれます。詳細は、<http://www.kunaicho.go.jp/info/kyototsunen-sks-sankan.html>をご覧ください。

内マークは、通常公開していない場所にあります。

これまでの「《京都》御所と離宮の葉」については、
宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。

＜問い合わせ先＞

〒602-8611 京都市上京区京都御苑3

宮内庁京都事務所 代表電話：075-211-1211

参観係直通電話：075-211-1215



其の十七：平成29年10月23日発行